

日本人の英語力の現状を踏まえた  
テスト開発の在り方

- 4技能の英語力の調査・分析を実施
- 高校3年生8万人を調査
  - 「読むこと」「聞くこと」はA1上位からA2下位に集中

**連絡協議会での議論の論点:**  
・民間の資格・検定試験団体等のノウハウを活かして**国と協働で実施する方策を検討できないか。**

各試験間の得点換算・対照表の  
作成及び活用等の検証の在り方

- ・各資格・検定団体等においてCEFRとの関係性を調査研究し公表
- ・データを基に、対照表を作成・情報提供

**連絡協議会での議論の論点:**  
・目的・出題意図等が異なる複数の試験間での**精度の高い検証には、相当なデータ等の裏付け・時間が必要**ではないか。  
→ **目的の異なる試験を比較するのは困難**  
・団体等が既に実施している検証状況について積極的に情報提供を行ってはどうか。

受験料負担など経済格差や  
受験機会の地域格差による  
機会の不均等の解消

- ・受験料は約2万円～7000円。各団体は独自の減額・補助制度等を実施。
- ・地域によって受験会場×実施回数の差は大きい。

**連絡協議会での議論の論点:**  
・経済負担の観点から、**新テストで英語4技能測定を行うことを前提とした方策も検討すべき**ではないか。  
・公平性の観点から、**学生生徒数に対する受験機会を確保するための方策の検討が必要**ではないか。

平成26年度

情報共有

- ① 「英語4技能試験情報サイト」(平成27年1月31日~)
- ② 英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について(通知)(平成27年3月31日付 26文科初第1495号)
- ③ 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会(平成27年6月10日、6月18日)

平成27年度

民間の資格・検定試験を受験した  
大学生の得点分布に関する  
各団体からの情報提供

**得点分布と活用レンジ  
に関する情報収集**

連携

各大学等の入学者選抜における民間の  
資格・検定試験の活用方法についての  
大学アンケート・事例研究・受験生意識調査

**大学入試での活用  
にあたっての促進・阻害要因の分析・  
活用導入事例の情報収集**

各試験団体における減額・補助制度等や  
受験機会の確保の状況の把握・普及促進

**受験料負担や受験機会確保に  
ついての議論のための情報収集**

各試験団体のスコア分布について  
の情報交換・議論を実施

第1回にて  
報告

「民間の英語資格・検定試験の大学入学者選抜  
における活用実態に関する調査研究事業」を  
委託事業により実施

今回の  
報告事項

各試験団体の受験料の減額・補助等の支援制度  
や受験機会拡大についての情報交換・議論を実施

前回および今回の  
報告事項

平成28年度

・「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」/「高等学校基礎学力テスト(仮称)」等の英語試験に関する情報提供・議論

## <参考資料>

### 平成28年度大学入学者選抜実施要項

(平成27年5月27日付け27文科高第261号文部科学省高等教育局長通知)

#### 4 資格・検定試験等の成績の活用

(1) 入学志願者の能力・適性や学習の成果、活動歴等を多角的かつ客観的に評価する観点から、例えば、以下のとおり、学部等の特性及び必要に応じ信頼性の高い資格・検定試験等の活用を図ることが望ましい。

① 入学志願者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について」（平成27年3月31日付け26文科初第1495号文部科学省初等中等教育局長・文部科学省高等教育局長通知）を踏まえ、実用英語技能検定（英検）やTOEFL等、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を測ることのできる資格・検定試験等の結果を活用する。